

# 平成30年度消防団員等公務災害補償の概要

(災害補償課)

平成30年度における損害補償費及び福祉事業費の支払件数及び支払額について、その概要を紹介します。

## 1 平成30年度における損害補償費等支払状況

平成30年度の損害補償費の支払件数は2,289件で前年度に比べて18件減少(△0.8%)し、支払額は1,733,894千円で同14,898千円減少(△0.9%)しています。

また、福祉事業費の支払件数は916件で前年度に比べて8件減少(△0.9%)し、支払額は426,237千円で同15,233千円増加(3.7%)しています。

### (1) 損害補償費

支払件数について種類別にみると、療養補償が1,426件(損害補償費全体の62.3%、前年度比+12件(+0.8%))と最も多く、次いで、遺族補償の607件(同26.5%、同△7件(△1.1%))、休業補償の126件(同5.5%、同△24件(△

16.0%))の順となっています。なお、この3種類で損害補償費全体の94.3%を占めています。

次に、支払額について種類別にみると、遺族補償が1,217,028千円(損害補償費全体の70.2%、前年度比△22,433千円(△1.8%))と最も多く、次いで、療養補償の256,713千円(同14.8%、同△2,831千円(△1.1%))、障害補償の210,728千円(同12.2%、同+17,429千円(+9.0%))の順となっています。なお、この3種類で損害補償費全体の97.1%を占めています。

なお、平成30年度に支払った主な障害補償については、建物火災に出動、消火活動に従事し、火災鎮圧後の後片付け時に右被殻出血を発症し、その後遺障害として、左上下肢の不全麻痺(身体性機能障害)と判断されたものなどがあり、また、主な遺族補償(死亡事案)については、豪雨災害における土のう工を実施するための移動中に車両ごと土砂に巻き込まれ、窒息(胸部圧迫)による死亡と確認されたものなどがありました。

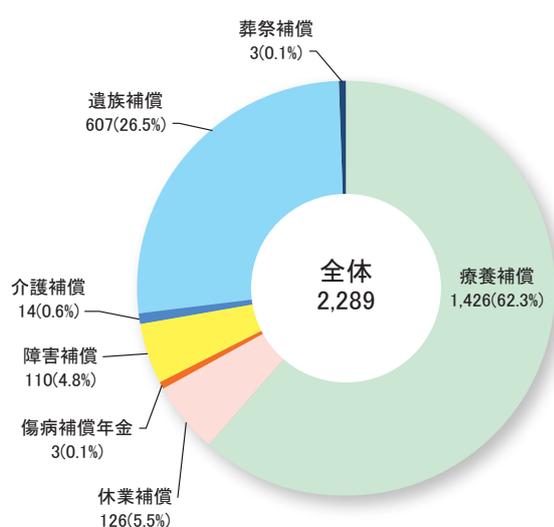


図1 損害補償費支払件数 (単位: 件 (%))

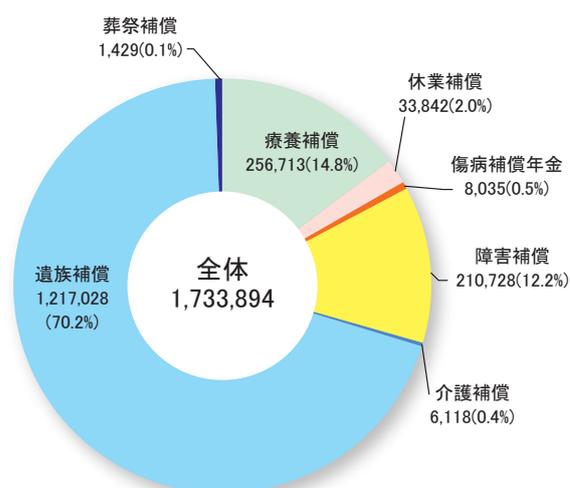


図2 損害補償費支払額 (単位: 千円 (%))

注 割合及び全体は、端数処理により一致しない場合がある(以下図において同じ)。

表1 損害補償費における対前年度増減比較

| 区分     | 増減  |         | 主な要因          |
|--------|-----|---------|---------------|
|        | 件数  | 金額      |               |
| 療養補償   | 12  | △2,831  | 請求単価の減        |
| 休業補償   | △24 | △5,465  | 請求件数の減        |
| 傷病補償年金 | 0   | △7      | 補償基礎額(扶養加算)の減 |
| 障害補償   | 3   | 17,429  | 受給者の増         |
| 介護補償   | △2  | △882    | 受給者の減         |
| 遺族補償   | △7  | △22,433 | 受給者の減         |
| 葬祭補償   | 0   | △710    | 請求単価の減        |

(2) 福祉事業費

支払件数について種類別にみると、遺族特別給付金が524件(福祉事業費全体の57.2%、前年度比△6件(△1.1%))と最も多く、次いで、休業援護金の124件(同13.5%、同△23件(△15.6%))、障害特別給付金の104件(同11.4%、同+7件(+7.2%))の順となっています。なお、この3種類で福祉事業費全体の82.1%を占めています。

次に、支払額について種類別にみると、遺族特別給付金の234,436千円(福祉事業費全体の55.0%、前年度比△3,647千円(△1.5%))と最も多く、次いで、遺族特別援護金が55,800千円(同13.1%、同0千円(±0.0%))、障害特別給付金の43,194千円(同10.1%、同+3,626千円(+9.2%))の順となっています。なお、この3種類で福祉事業費全体の78.2%を占めています。

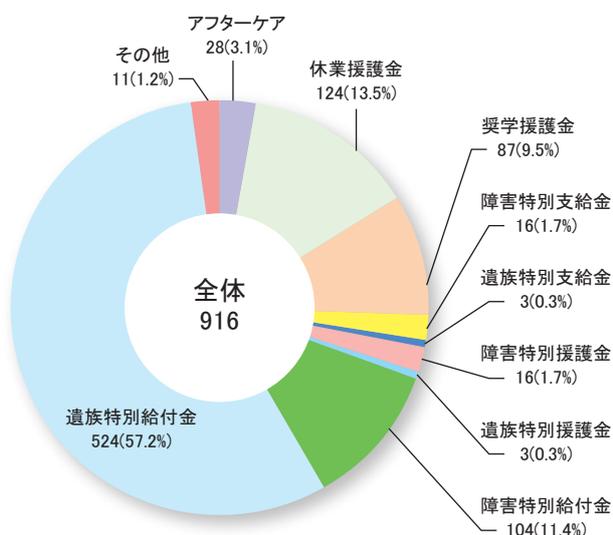


図3 福祉事業費支払件数 (単位: 件 (%))

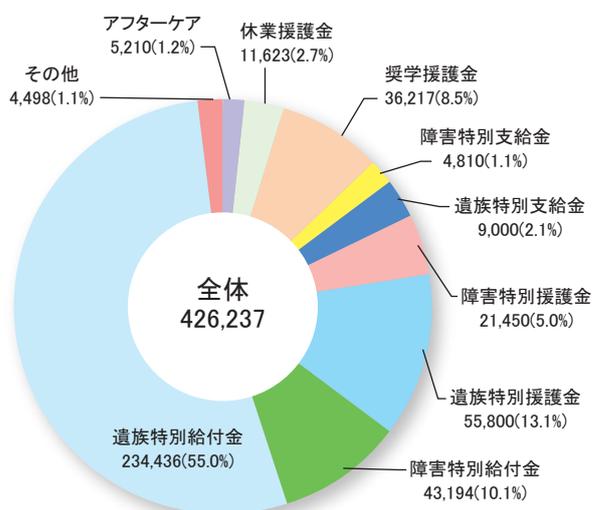


図4 福祉事業費支払額 (単位: 千円 (%))

表2 福祉事業費における対前年度増減比較

| 区 分        | 増 減 |        | 主 な 要 因       |
|------------|-----|--------|---------------|
|            | 件 数 | 金 額    |               |
| 補装具        | 4   | 2,294  | 請求件数の増        |
| リハビリテーション  | 0   | △981   | 請求単価の減        |
| アフターケア     | 0   | △2,608 | 請求単価の減        |
| 休業援護金      | △23 | △1,100 | 請求件数の減        |
| 奨学援護金      | △4  | △2,308 | 受給者の減         |
| 就労保育援護金    | △5  | △120   | 受給者の減         |
| 傷病特別支給金    | 0   | 0      |               |
| 障害特別支給金    | 9   | △3,830 | 請求件数の増        |
| 遺族特別支給金    | 0   | 0      |               |
| 障害特別援護金    | 9   | 16,200 | 請求件数の増        |
| 遺族特別援護金    | 0   | 0      |               |
| 傷病特別給付金    | 0   | △596   | 補償基礎額(扶養加算)の減 |
| 障害特別給付金    | 7   | △4,067 | 受給者の増         |
| 遺族特別給付金    | △6  | △3,647 | 受給者の減         |
| 長期家族介護者援護金 | 0   | 0      |               |
| 旅行費        | 1   | 46     | 請求件数の増        |

## 2 最近5か年間における損害補償費等支払状況の推移

平成26年度から30年度までの年度毎の損害補償費及び福祉事業費の支払件数及び支払額の

推移をみると、平成22年度末に発生した東日本大震災の影響も薄らいできたため支払額については漸減傾向にあります。支払件数については、概ね横這いの傾向にあります。

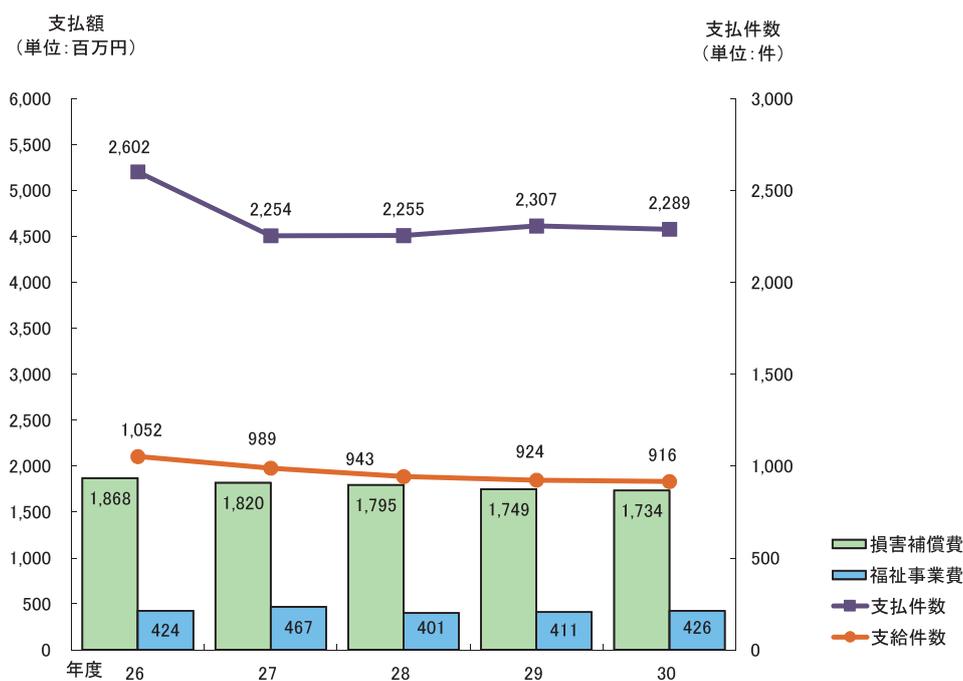


図5 最近5か年間の推移